

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 17 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26580063

研究課題名(和文)1980年代中国のキャラクター研究 文化的余波と商業的使用を中心に

研究課題名(英文)A study of 1980's characters in China: considered chiefly in cultural influence and commercial use

研究代表者

加部 勇一郎(KABE, Yuichiro)

北海道大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：30553044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国の人々に広く認知された「黒猫警長」「三毛」「葫蘆兄弟」などのキャラクターについて調査し、児童文化における伝播と変容について明らかにするものである。調査対象は、児童文学や児童雑誌、連環画やアニメーション、キャラクターグッズなどである。研究成果は、すでに国内外で、口頭発表または論文の形で公開されている。平行して、研究発展の基礎固めのための、他領域の研究者との積極的な意見交換もまた行なわれている。

研究成果の概要(英文)：This study investigates characters widely known by Chinese people such as “Black Cat Detective (Heimao jingzhang)”, “Sanmao” and “Calabash Brothers (Hulu Xiongdi)” and analyzes their diffusion and transformation within youth culture. The materials analyzed in this study include various examples of juvenile literature, magazines for children, comics (Lianhuanhua), and character goods. This research was disseminated through several reports at domestic and foreign symposiums and in several papers. I also exchanged views with many researchers in different academic fields to reinforce the foundation of this research and further develop this theme.

研究分野：中国文学

キーワード：キャラクター

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、中国のアニメーションやマンガを起点とするキャラクターである“黒猫警長”、“三毛”、“葫蘆兄弟”の三種について取り扱うものである。

“三毛”は1935年の新聞に掲載された漫画に由来し、“黒猫警長”と“葫蘆兄弟”は1980年代に誕生したアニメーションに由来したものである。これらは誕生以来、さまざまな児童向けコンテンツの中に表れ、現在までにたくさんの、続編を含めた二次的創作が生みだされ、商業的使用がなされている。代表者は2009年ころから、これら三種を対象として、資料の収集と分析に取り組んできており、研究開始時点ですでに“黒猫警長”について、数点の論考を発表している(「越境する主人公 “黒猫警長”世界の、そのはしっこのはなし」、『連環画研究』第1号 pp.47-61、連環画研究会、2012.3など)。

“黒猫警長”は中国の児童文学『黒猫警長』(諸志祥著、福建少年儿童出版社、1982)に由来し、同名アニメ(戴鉄郎監督、上海美術電影製片廠、1984-87)の全国的な浸透を契機として、現代中国のヒーローとして人々に広く知られていった存在である。そして、現在までのおよそ30年の間に、関連する、大量の小説・映像・連環画・マンガ・児童劇・キャラクターグッズが生み出され、それらは総体として、内容と図像の点で、膨大かつ豊富なバリエーションを有する状況に到っている。これらの派生作品からは、一つの核となる物語がどのように人々によって消費・内面化・再創造されるか、といった、人々の文学的営みに関する興味深い点をうかがい知ることができるのであり、その詳細な分析と記述が待たれていた。

“三毛”は、中国を代表する漫画家である張楽平(1910-1992)によって生みだされた児童形象(1935-)である。その研究について、張楽平およびその代表作『三毛流浪記』(1947-49)に関するものは、わりに豊富であったが、50年以降の“三毛”物語や、現在へと到るその歴史的変遷についての詳細な調査と分析は、概説的なものを除いて、まだほとんどなされていない状況にあった。したがって、その一次資料の収集と表象特徴についての分析が待たれていた。

“葫蘆兄弟”は同名アニメーション(上海美術電影製片廠、1986-87)に由来するキャラクターである。現代に生きる中国人の幼少期に寄り添うコンテンツとして非常に重要なものと言えるが、その研究については、アニメーション史において概説が述べられる程度であり、物語内容の分析や文化的余波についての記述、世界の同種の物語との比較などについての分析はまだ不十分な状況にあった。

## 2. 研究の目的

本研究が研究対象とするキャラクターは、いずれも80年代以降に生きる中国人に広く認知されているものばかりである。そして、キャラクターの全国的な伝播と、その伝播ともなう変容とを詳細に調査することは、人々がキャラクターをどのように受容・内面化・再創造したのかということを浮き彫りにする。したがって、本研究は、児童向けキャラクターを通して、80年代中国の「児童文化」「出版文化」「図像文化」、そしてその裏にある「人的交流」などを眺めるものとなる。

分析の中心となるのは、文学や児童雑誌、連環画やアニメーション、キャラクターグッズや児童向け施設(記念館や児童公園など)である。

## 3. 研究の方法

研究目的を達成するための主な計画・方法は、大まかに以下の3点である。

(1) 中国と日本の図書館および古書店などにおける資料収集。

(2) 収集した資料の分析およびテーマごとの表象特徴の抽出および考察。

(3) 研究成果を学会・研究会上にて発表し、他領域の研究者と意見交換した上での、紙媒体における発表。

## 4. 研究成果

三年の期間のあいだに、中国児童雑誌研究、マンガ研究、上海研究、社会主義研究など、さまざまな領域の研究者が集うシンポジウムに参加し、活発かつ有意義な意見交換を行なうことができていた。また、その成果の大半は、すでに原稿化がなされ、雑誌掲載を果たしており、より多くの人々が手に取れる状態にある。

キャラクターを専門的に取りあげる研究したいについては、まだ未発達な段階と言いつべきだが、この三年間の活動で、研究対象としての豊饒性および他領域との連携の必要性(と連携後の可能性)について、示すことができた。

以下、具体的に、三種のキャラクターそれぞれと「その他」の四項目に分けて記す。

### (1) “黒猫警長”

2015年に京都マンガミュージアムで行われた学術シンポジウム「連環画、そのさまざまな顔～他ジャンルとの接点をさぐる～」にて研究発表し、マンガやアニメーション

ンの研究者との意見交換を行った。

の発表内容を雑誌『連環画研究』上にて発表した。

すでに発表済みの論考を精査した上で一つにまとめあげ、雑誌『共産圏アニメ SF 研究会論集』上にて発表した。

## (2) “三毛”

張楽平の生涯の画業についての梗概とその特徴についてをまとめ、彼が残した“三毛”物語の概要とキャラクター“三毛”の変遷について述べ、彼の代表作である『三毛流浪記』(1947-49)の現代的意味について考察し、その内容を雑誌『連環画研究』上にて発表した。

上海で発行された『児童時代』(1950-)を調査し、掲載された張楽平の作品を抽出し、その活動の概要について発表した。

日本の大学図書館や研究機関に赴き、1950-60年代の“三毛”物語が掲載された新聞(『解放日報』『大公報』(上海版))を閲覧し、現在流通する版本との異同について考察し、記述した。

浙江省嘉興市海塩県にある張楽平記念館を訪問し、資料の購入・閲覧・撮影などの調査活動を行い、詳細に記述した上で研究会報上にて発表した。

上海にて開かれた国際シンポジウム「文化空間与文化融合国際學術討論会」上にて、上海の代表的児童形象としての“三毛”について、その歴史的変遷と社会的役割について発表した。

## (3) “葫蘆兄弟”

アニメーション『葫蘆兄弟』の物語内容の分析や歴史的評価を整理し、関連する物語である「十兄弟型説話」について調査した。またそれらから“同じ顔”というキーワードを抽出し、中国のアニメーション『没頭腦和不高興』(1962)と『象不象?』(1978)の二種に見える“同じ顔”の分析を行い、それらをシンポジウム「紅い星に願いを 社会主義文化の伝播と比較」上にて発表した。

の内容について原稿化し、雑誌『大朋友』上にて発表した。

## (4) その他

他の社会主義国家(ロシア・ベトナム)を専門領域とし、アニメーションや児童向けSF、国民的キャラクターといった、共通の問

題意識を持つ研究者らと幾度も意見交換の機会(共産圏アニメ SF 研究会)を設け、報告書『共産圏アニメ SF 研究会論集』を編集・印刷した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

加部勇一郎、“同じ顔”の子どもたち アニメ『葫蘆兄弟』を端緒として、大朋友、査読無、第1号、2017、23-38

加部勇一郎、“黒猫警長”研究序説 キャラクターの誕生とその伝播について、共産圏アニメ SF 研究会論集、査読無、第1号、2017、107-126

加部勇一郎、アニメのような、マンガのような 戴鉄郎氏のマンガ『黒猫警長』について、連環画研究、査読無、第5号、2016、84-97

加部勇一郎、張楽平記念館を訪ねて、中国文芸研究会会報、査読無、第400号、2015、61-63

加部勇一郎、アメと包み紙、連環画研究、査読無、第4号、2015、139-156

加部勇一郎、流浪する少年 国民的キャラクター“三毛”を読む、連環画研究、査読無、第4号、2015、66-84

加部勇一郎、賀友直『賀友直画自己』、中国文芸研究会会報、査読無、第402号、2015、6-7

加部勇一郎、音韻遊戯『鏡花縁』と『七嬉』を中心に、饕餮、査読無、第22号、2014、60-83

加部勇一郎、縛りたい男 清末の『鏡花縁』続書二種を読む、野草、査読有、第94号、2014、1-20

[学会発表](計12件)

加部勇一郎、『児童時代』の表紙を読む、中国児童雑誌研究会、2017.3.4、首都大学東京(東京都八王子市)

加部勇一郎、“三毛”的歴史変遷与多樣的社會功能、文化空間与文化融合國際學術討論会(国際シンポジウム)、2016.8.26-27、上海社会科学院、上海(中華人民共和国)

加部勇一郎、同じ顔の戦士たち アニメ『葫蘆兄弟』における継承と展開、シンポジウム「紅い星に願いを 社会主義文化の伝播と比較」、2016.8.20-21、北海道大学(北海道札幌市)

加部勇一郎、“三毛”の歴史的変遷とその社会的役割について、中国児童雑誌研究会、2016.8.6、首都大学東京(東京都八王子市)

加部勇一郎、戴鉄郎のマンガ『黒猫警長』について、中国児童雑誌研究会、2016.3.4、首都大学東京(東京都八王子市)

加部勇一郎、そして何も出なくなった 豊

饒と潤湯の物語、「乳房」の図像と記憶 中国・ロシア・日本の表象比較研究、2015.8.29、北海道大学（北海道札幌市）

加部勇一郎、『児童時代』における異国表象 1966年までを中心に、中国児童雑誌研究会、2015.8.1、首都大学東京（東京都八王子市）

加部勇一郎、子ども文化と漫画・連環画「黒猫警長」シリーズを例にして、学術シンポジウム「連環画、そのさまざまな顔～他ジャンルとの接点をさぐる～」(招待講演) 2015.5.30、京都国際マンガミュージアム(京都府京都市)

加部勇一郎、雑誌『児童時代』における張樂平の活動について、中国児童雑誌研究会、2015.3.5、首都大学東京（東京都八王子市）

加部勇一郎、賀友直『賀友直画自己』について、自伝・回想録を読む会、2015.3.4、関西学院大学梅田キャンパス（大阪市北区）

加部勇一郎、三毛の大冒険、共産圏アニメSF研究会、2014.8.23、北海道大学（北海道札幌市）

加部勇一郎、新中国児童雑誌の概要とその研究状況、中国児童雑誌研究会、2014.8.2、首都大学東京（東京都八王子市）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加部 勇一郎 (KABE, Yuichiro)  
北海道大学・文学研究科・専門研究員  
研究者番号：30553044